

未来への下書き

——復興の風景を描き換える



1.背景

2.提案 市街地の未来を想起させる「掲示板」

3.方針「置く掲示板」から「育てる掲示板」へ

宇和島市街地班

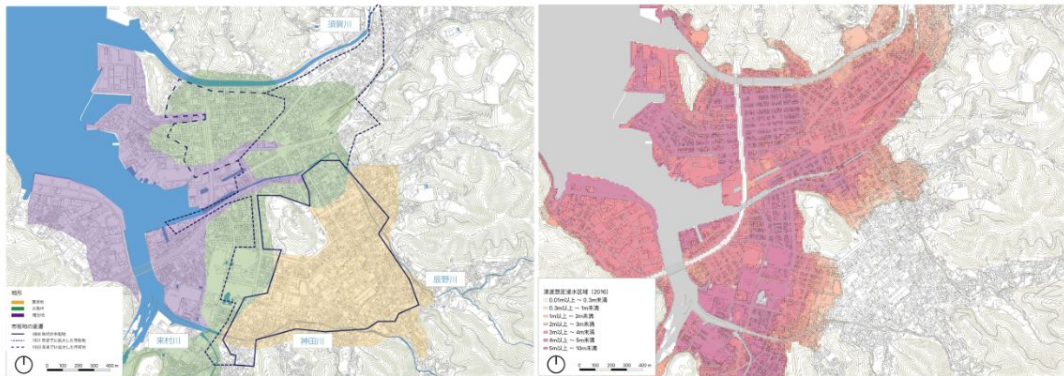
木村 小板橋 田代 堀 名和

1 背景 宇和島市街地の現状と課題

1.1 市街地の現況

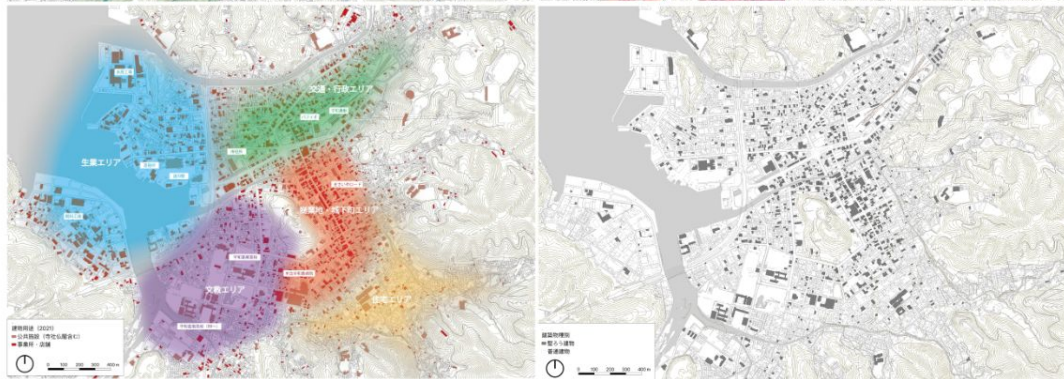
①地形と市街地の変遷

山が迫った扇状地からなる元々の地形を、江戸期以降海側に拡大し、市街地を拡大していった。



②都市機能の集積

元々の城下町エリアには商業機能が、埋め立てエリアには工業、教育、行政機能が集積しており、南予地方の中心都市の役割を担っている。



③津波のリスク

埋立地が多い宇和島市街地は津波浸水のリスクが高い。特に工業、商業、公共機能が集積しているエリアが大きく被害を受けうる。

④建物倒壊のリスク

津波浸水の恐れが低いエリアでは、堅牢な建物が少なく、木造で規模の小さい普通建物が多いため、地震時の建物倒壊の可能性がある。

1.2 事前復興の課題

①空間的将来像における具体性の欠如

従来の事前復興計画では、空間的将来像を具体的にイメージすることが難しい。地形や産業が多様で、変化も大きい中心市街地においては、地点固有の災害リスクや復興ニーズを反映した、より細かな空間的ビジョンが必要である。

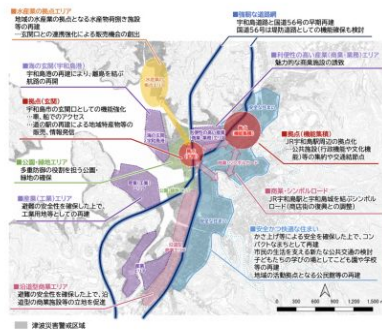
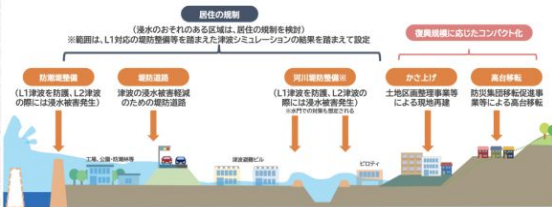


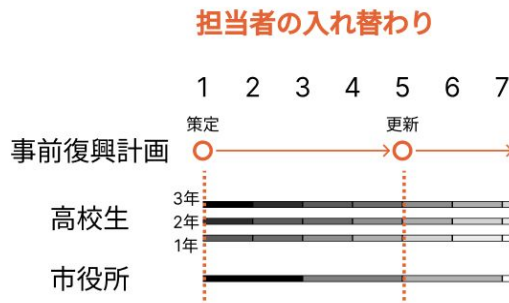
図 宇和島市街地の復興まちづくりイメージ



宇和島市街地事前復興まちづくり計画 より

②入れ替わり・世代の偏りによる持続性の欠如

数年おきに事前復興計画を更新する場合、防災・復興に従事していても、次第に担当者が入れ替わり、ノウハウが継承することが難しい。また、働く世代にとって、ワークショップ自体も参加するハードルは高く、次世代の参加機会確保や関心自体の醸成が持続的な活動に求められる。

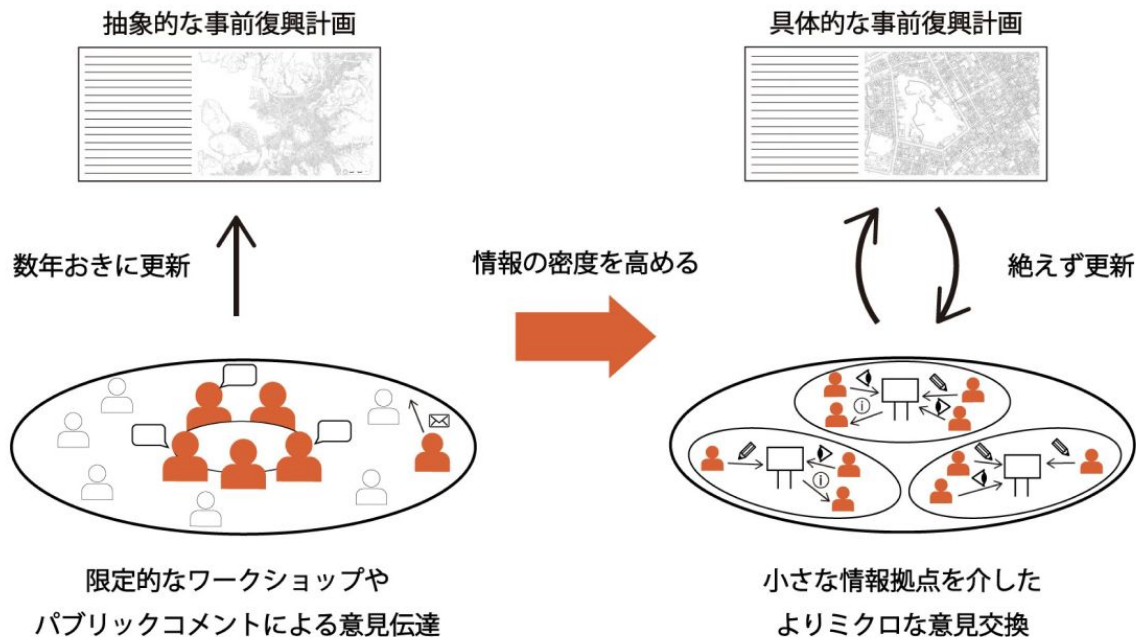


2.1 事前復興計画のビジョン

小さな情報拠点を介した密度の高い事前復興計画

地形に由来する土地利用、災害リスクによって環境が異なる宇和島市街地においては、エリア単位での意見交換・集約が必要となる。

そのために、エリア単位で小さな情報拠点を設け、地域に根差したミクロな意見交換を常に行い、絶えず事前復興計画を更新していく。



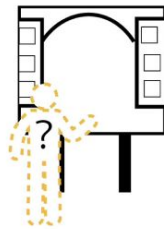
2.2 小さな情報拠点としての掲示板

① 地域のニーズに応える掲示板

住民

掲示板の持つ匿名性により、意見を書き込みやすくなる

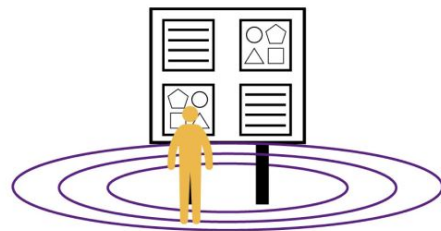
若者や子育て世代などが、気軽に自分の考えを伝えることができる。



高校生

自由な発信の場ができ、研究が深められる

今までより簡単に意見収集ができ、研究の幅が広がる。



行政

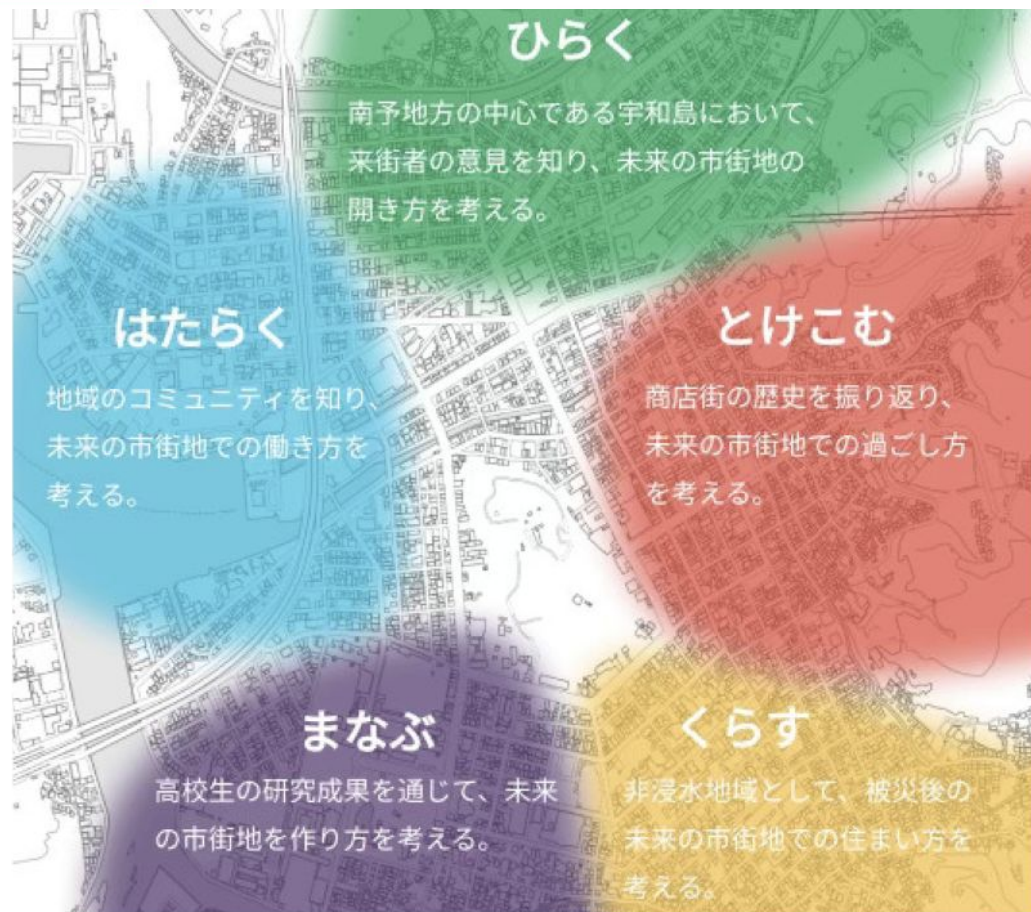
アナログな手法により、より細かな情報が手に入る

住民発信の新たな情報を用いて、より具体的な空間像の検討を行える。



② 地域の特徴に対応したテーマ

土地利用や災害リスクに応じて、5つのエリアに分け、エリアごとに未来の市街地を考えるためのテーマを設定する。各テーマをもとに、エリアごとの具体的な将来像を検討しつつ、5つを結び市街地全体の将来像を描くことにも繋げていく。



2.3 掲示板の種類

はたらく掲示板

@きさいや広場



市街地を構成する産業は一見その土地から離れても成立するに思えるが、市内の農業や漁業、工業に支えられ成り立っている。生産者から始まる人のつながりを見えるかすることで、未来の市街地での働き方を考える。

とけこむ掲示板

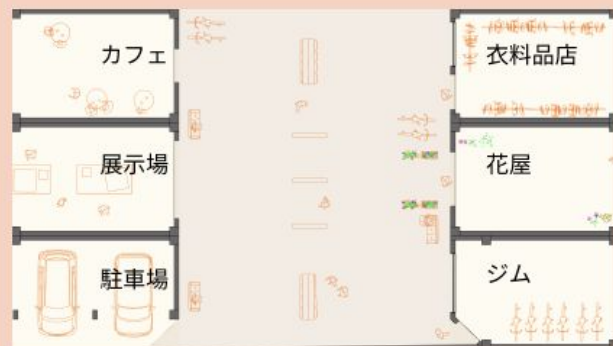
@きさいやロード



商店街は歴史的に市街地の中心を担ってきた。その歴史を振り返りながら、アクリル板越しに見える景色に自分が思う商店街の将来像を描き、未来の市街地での暮らし方を考える。

商店街の将来を想起させる -とけこむ掲示板

事前復興時



復旧期



復興期



事前復興により被災後もその地に店を構えたい未来を考える。市街地に住む多様な人の理想に対し幅広い意見集約を行う。

倒壊家屋等の瓦礫の撤去を行い空き地となった場所に仮設商店を設ける。生業の復興と街のシンボルとしての商店街を維持する。

掲示板を通じて多種多様な視点から構想した復興後のあるべき商店街の姿を叩き台とし、市民の思いとともに新たな商店街を築く。

3方針 「置く掲示版」から「育てる掲示版」へ

3.1 運営プロセス

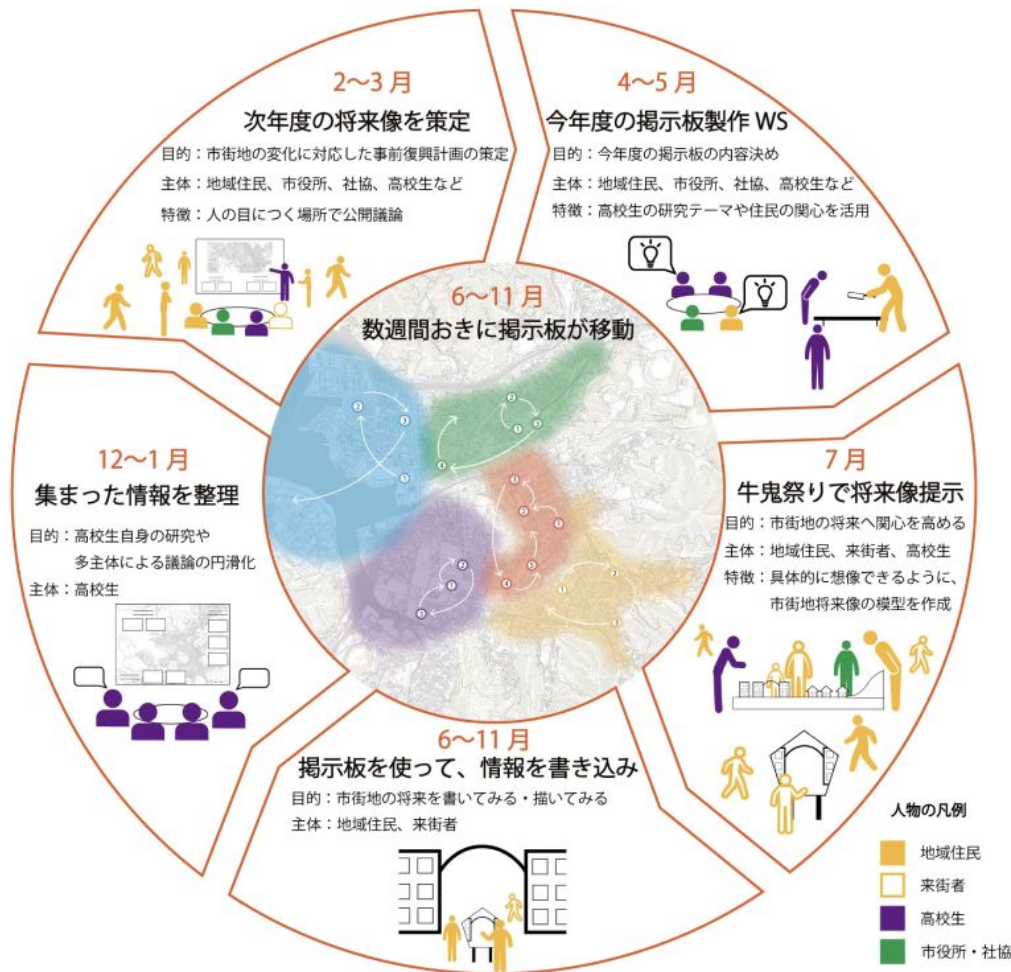
①運営体制

毎年度新入生がいる高校生を中心として運営を行い、長期的に持続可能な体制を構築する。高校生にとって、掲示版を自身の研究に活用できることが参加の動機となる。



②運営サイクル

1年間で完結し、毎年度新たな将来像を策定する。既存のイベントや公開議論を活用することで、書き込んだ人々が意見の反映の過程を知り、そこへ参加できる仕組みを築く。



3.2 地域デザインミュージアム

①目的

1. 掲示板を活用した、事前復興計画やまちの将来像の検討のプロセスを体験してもらう
2. 掲示板の実装に向けて、手法の改善点や設置可能場所についての意見をもらう

②内容

- | | |
|------------------|--|
| 1. 商店街の未来を想像してみる | 商店街の復興過程模型（1/50）を使って、商店街の未来を想像してみる |
| 2. 商店街の未来を描いてみる | とけこむ掲示板を使って、自分なりの商店街の未来を描く体験してみる |
| 3. 市街地の未来を話してみる | 市街地模型（1/2000）を使って、自分なりの市街地の未来を皆と共有してみる |

③今後の流れ

夏

プロトタイプを設置し、デザインや手法の改善点について高校生とディスカッション @宇和島

秋

夏の試作を振り返って、地域デザインミュージアムに向けて内容をプッシュアップ @東大

12月

具現化への一歩として、商店街にて地域デザインミュージアムを実施 @宇和島